

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 2 6 年度第 1 回高松市自治推進審議会
開催日時	平成 2 6 年 9 月 1 日（月） 1 0 時～1 1 時 5 5 分
開催場所	市役所 3 階 3 2 会議室
議 題	（１）会長・副会長の選任について （２）会議の公開について （３）高松市自治基本条例の見直しの検討結果について （４）高松市自治基本条例と総合計画の関係について （５）その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
出席委員	井原会長、本多副会長、鹿子嶋委員、滝川委員、竹田委員、野田委員、元山委員、山本委員
傍 聴 者	1 人 （定員 5 人）
担当課及び 連絡先	政策課（839－2135）

会議経過及び会議結果

議題（１）会長・副会長の選任

高松市自治推進審議会条例第 5 条第 1 項の規定により、委員の互選により会長、副会長を選任した。

会 長 井原 理代 委員

副会長 本多 八潮 委員

議題（２）会議の公開について

会議の公開について、高松市自治推進審議会は、個人情報等、非公開となるような審議は想定されないため、公開とした。

議題（３）高松市自治基本条例の見直しの検討結果について

事務局から、庁内で確認したところ、条例の見直しの必要性がなかった旨を報告し、了承を得た。

議題（４）高松市自治基本条例と総合計画の関係について

事務局から、高松市自治基本条例と総合計画の関係について説明し、主に策定に係る市民参画の手法等について、議論した。

【主な質疑・意見等】

（委員）

施策目標に対する市民アンケートだが、アンケート対象者の基準はあるのか。

（事務局）

市民 4,200 人を無作為抽出し、結果的として、回答者の均一化を図る予定である。

これまで市が実施したアンケートでは、回答の比率が高齢者が高い傾向で、若い人の意見が少ないということもあり、今回、ビッグデータの活用やラウンドテーブルで大学生からも意見を聞くなど、アンケート調査を補強し、市民の意見等をできるだけ、偏らないように把握したいと考えている。

会議経過および会議結果

(委員)

画一的なアンケートではなく、世代に応じてアンケート内容を変えるなど、新しいアンケートの仕組みを考えても良いのではないか。

(委員)

これだけ、人の意識や世の中の流れが変わっている中、総合計画の計画期間が8年の理由は何であるか。

(事務局)

8年間というのは、全国的に見れば、長い方ではない。高松市の総合計画は、2層構造（基本構想と実施計画）であり、中長期的なコンセプトは、基本構想としてしっかりと置き、2年に1度見直す実施計画の部分で、柔軟に対応できる仕組みをとっている。そのような計画の作り方により、時代の流れに対応できるようにしている。

(委員)

アンケートでは、一般的な傾向は分かるが、細かい施策レベルの部分をアンケートで分析していこうというのは、不可能なことである。傾向を把握するという意味では、アンケート調査は意味があることだと思うし、また、アンケートの回答が高齢者の比率が高いというのは全国的な傾向であり、それをラウンドテーブルの実施やビッグデータの活用で補完していくというのは、十分評価できる方法である。

(会長)

理念的には、あるべきアンケートというものがあると思うが、実施上の問題として、一般的なアンケートにならざるを得ないようである。そこを何とか補ってもらいたいというのが、委員の考えである。

(委員)

私は、大学生を集め、地域での居場所づくりを行っている。大学生に未来のまちづくりについて、自由に意見を出してもらったことがあるが、様々な意見が出た。自由な意見を出せる場をぜひ作ってもらいたい。

(事務局)

今回実施しているラウンドテーブルでも、一定のテーマの下、自由に意見を頂いている。

(委員)

ラウンドテーブルは、全くの一般市民よりも、ちょっとした知識を持っている人やリーダー的な人などを集めて実施する方が良いのではないか。

(委員)

協働に実際に携わっている人や地域コミュニティの活動に携わっている人など、実質的に自治推進のため動いている人の意見をきちっと吸い上げることが重要で、その方が効率的だし実効的だと思う。

(会長)

平成27年度に地域コミュニティ協議会への説明会が予定されているが、コミュニティ協議会の立場から、何かあるか。

(委員)

地域コミュニティは、様々な分野、階層に携わっている。まちづくりの全てに携わっているため、あれもこれもしなくてはならない。コミュニティ協議会としては、長期的ではなく、単年度ごとに大きな目標を掲げてもらいたい。

(会長)

各委員から意見が出されているので、まちづくりに関係している団体等との意見交換の機会を、何らかの形で入れてもらいたい。

(事務局)

予定しているコミュニティ協議会への説明会や市長との意見交換会、ま

た、出前講座など既存の枠組みを含めて、検討したい。

なお、総合計画の下には、分野別計画があり、個々にアンケートを実施し計画を策定している。また、分野別計画の策定、実施に当たっては、それぞれ審議会等があるので、その場では当該関係団体の意見は頂いている。

(会長)

行政が、様々な工夫と凝らし、市民の意見を吸い上げていることを承知しながらも、さらに効果的な方法や仕組みを検討していただきたい。

(委員)

現行の総合計画の評価をする評価委員会のようなものはないのか。そこに市民参画はあるのか。

(事務局)

評価委員会はないが、行政評価システムを活用し、その結果は、取りまとめて公表している。

(会長)

個々の関係する審議会で評価するということはあるのではないか。

(事務局)

分野別計画については、その計画の審議会等で意見を頂いている。来年度、新しい総合計画の審議会を作るので、その際、第5次の総合計画がどうであったのかというのも当然触れながらの議論になる。

(会長)

パブリックコメントを2回（案が固まる前と後）実施するようになっていくが、これは、本審議会での意見が生かされている。最近、パブリックコメントの意見数が少ないと聞くが、計画等の原案が出来上がる前段階で実施するパブリックコメントで、多くの意見が出ることを願う。

パブリックコメントを実施していることを知らなかったというのでは困るので、周知にも御留意いただきたい。

(委員)

総合計画の全体ではなく、部分的に分けて行うなど、パブリックコメントの提示の仕方を工夫してもらえれば、意見数も増えるかもしれない。

(事務局)

パブリックコメントの周知について、ホームページや広報紙の他、関係団体には、個別にお知らせをしていると思う。ただ、そのような方法では、意見件数が集まらないということもあるので、提示の方法を工夫してみたい。根本的には、当事者として関わりを持っていこうという市民の意識づくりが必要で、その人が意見を出しやすい環境づくりが必要だと思っている。

(委員)

タイトルや表現を工夫するなど、市民が分かりやすいように工夫してもらいたい。

(副会長)

高松市は、情報提供・発信が下手だと思う。広報紙は、自治会に入っていないと配達されていない。もう少し、情報提供を真剣にやらないといけない。市民に関心を持ってもらわないといけない。

(委員)

行政が、様々な懸案事項を決定する際に、流れとしてパブリックコメントを実施したから、全ての市民の意見を聞いたという既成事実とするようなことは、絶対にやめてほしい。実のあるパブリックコメントにしてほしい。

(会長)

総合計画の策定スケジュールにもあるように、原案が出来上がる前の第

一段階のパブリックコメントを特に有効に使っていただけるような工夫をしてもらいたい。

議事（５）その他

今後の予定について事務局より説明。

—以上で審議終了—